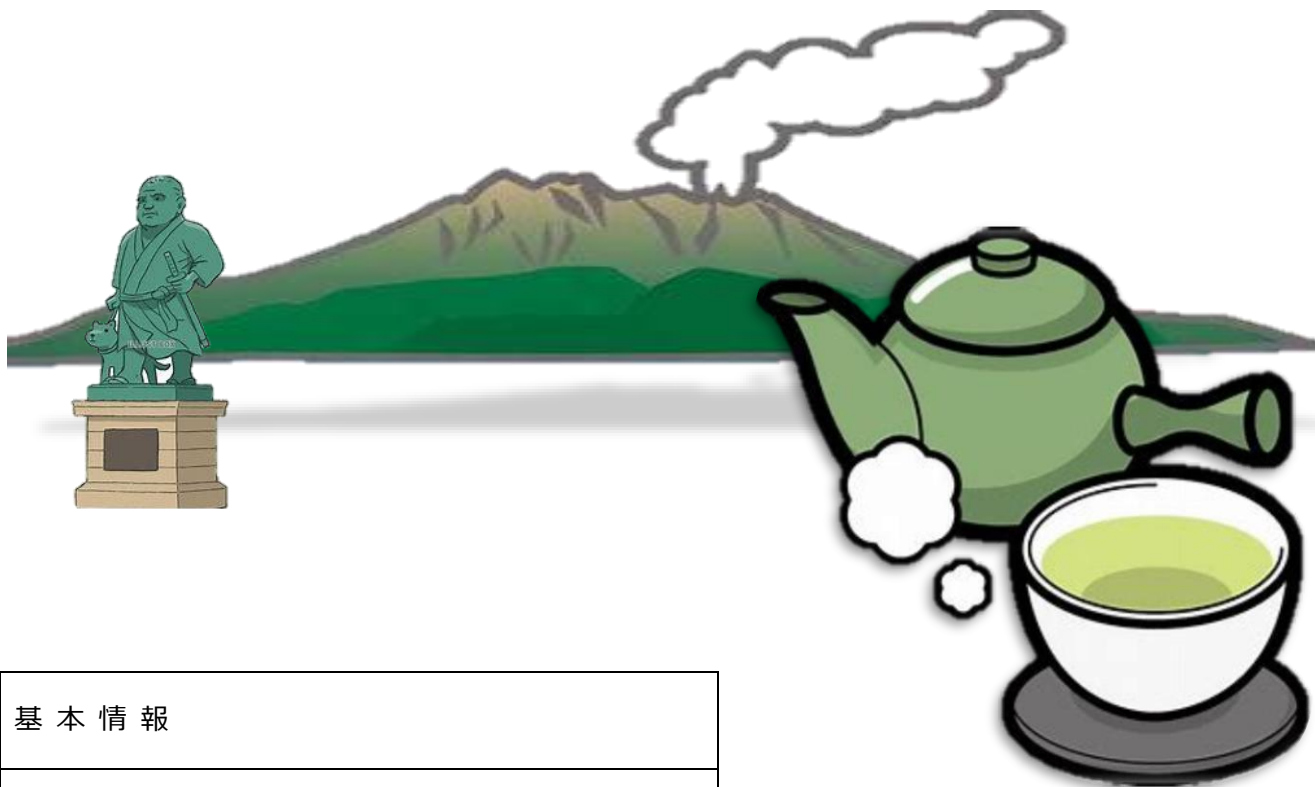


かごしま茶を世界へ



基本情報
応募区分：大学
チームID：SL2300545
チーム名：お茶に憧れるのをやめましょう
学校名：鹿児島県立短期大学
学年：2年
リーダー名：山崎
メンバー名：佐藤、福元、松下、若原
指導教員名：岩上敏秀 教授（商経学科）



基礎学習（必須）

* 別添の学習ガイドブックをチーム全員がしっかり読んだ上で、

必ず、すべての設問に解答してください

1. 私たちの生活に必要な財やサービスを [1] 生産 し、[2] 流通 させ、[3] 消費 することを経済という。財やサービスには、代金を払った人だけが消費を独占できる [4] 私的財 と、政府が税金等を使って提供する [5] 公共財 とがある。
2. 経済の主体には、生産・流通の主体である [6] 企業、消費の主体である [7] 消費者（家計）、行政サービスや公共財の提供などを通して一国の経済活動を調整する主体である [8] 政府 がある。
3. 通貨には、紙幣や硬貨などの [9] 現金通貨 と、銀行などに預けられており振替などで決済手段として機能する [10] 預金通貨 とがある。
4. 2022 年からの成年年齢の引き下げに関する説明文のうち、誤っているものは？
[11] c
 - a. 成年年齢の引き下げにより、18・19 歳は父母の親権から離れ、親の財産管理権が及ばなくなった。
 - b. 親の同意なしで、携帯電話の契約を結んだり、アパートを借りたり、高額商品を買うためのローンを組んだりできるようになった。
 - c. 成年年齢引き下げ後に、いったん結んだ契約を取り消すためには「未成年取消権」の行使が必要になった。
 - d. 2023 年から、つみたて NISA の利用可能年齢が 18 歳に引き下げられた。
5. 日本では人口減少が進む中、性別や年齢、言語や宗教など多様な視点を有する人たちが構成される組織のほうが強さを増すという [12] ダイバーシティ（多様性） の重要性が指摘されている。




6. 2020年に署名されたRCEP(地域的な包括的経済連携)は、日本や中国、韓国など東アジアを中心に [13] 15 国が参加し、世界の人口とGDPのおよそ [14] 3 割を占める世界最大規模の自由貿易圏である。

7. グローバル化の進展に関する次の説明文のうち、正しいものは？

[15] d

- a. 貿易が自由化され、安い輸入品が国内に入ってくることは、消費者にとっても国内の生産者にとってもメリットになる。
- b. グローバル化の進展による影響は、経済以外の分野ではあまり見られない。
- c. 「環太平洋経済連携協定（TPP）」は、FTA（自由貿易協定）の一つである。
- d. 近年の日本の国際収支をみると「投資収益」が大幅な黒字を計上している。

8. 「持続可能な開発目標（SDGs）」の17の目標のうち、今回、グループで設定した投資テーマと特に関連が深い目標を挙げ（3つ以内）、その主な理由を記述してください。

関連の深い SDGsの目標		その主な理由
8 働きがいも経済成長も		経済が停滞すれば、社会が回らなくなる。しかし、経済成長だけを求めると長時間労働等の問題が生じる。そのため、両方を大事にすることが重要であり、更なる持続的な経済成長と雇用環境の改善が必要と考えたため。
9 産業と技術革新の基盤をつくろう		日本は少子高齢化が進んでおり、労働力不足が問題となっている。そこで、AIやIoTなどの先端技術を活用することが、生産性の向上や労働問題の解消に繋がると考えたため。
13 気候変動に具体的な対策を		農業は気候変動の影響を受けやすく、農産物の品質の低下や生育環境の劣悪化が問題となっている。よって、気候変動の主な原因である温室効果ガスを削減することや地球温暖化を防ぐことが必要と考えたため。

9. 「ESG投資」で重視する3つの要素の組み合わせとして、正しいものはどれか？

[16] b

- a. 経済 — 科学 — 成長
- b. 環境 — 社会 — 企業統治
- c. 効率 — 持続可能性 — 企業統治

10. GDP(国内総生産)に関する次の説明文のうち、誤っているものは？

[17] a

- a. GDPとは、一定期間に国民全体として生産したモノやサービスの付加価値の合計額をさす。
- b. GDPとは、一定期間に国内で生産したモノやサービスの付加価値の合計額をさす。

- c. 実質 GDP とは、名目 GDP から物価の変動による影響を差し引いたものである。
- d. 2022 年(暦年)の日本の GDP の額は、名目 GDP が実質 GDP を上回っている。

11. 日本最大の証券取引所は、東京証券取引所（東証）であるが、その他にも [18] 札幌、[19] 名古屋、[20] 福岡 に地方証券取引所があり、地域経済や地域企業のサポート役として存在している。

12. 投資のリスクを小さくする方法には、「長期」、「分散」、[21] 積立 の 3 つが重要とされている。分散投資は [22] 資産 や、[23] 地域、[24] 時間 を分けることで安定した収益が期待出来る。

13. 「積立投資」に関する次の説明文のうち、誤っているものは？

[25] c

- a. 積立投資は、定期的に株式などの金融商品を購入する投資の方法の一つである。
- b. 積立投資には定量購入と定額購入の 2 つがある。
- c. 積立投資は、元本が保証されている投資方法である。
- d. ドル・コスト平均法では、株価が高いときには少ない数しか株を買えないが、株価が下がれば購入できる株が多くなり平均的な購入価格を抑えることができる。

14. 次のうち、資本に対し企業がどれだけの利益を上げているかを表し、数値が高いほど経営効率が良いと言える財務指標はどれか？

[26] a

- a. ROE
- b. 自己資本比率
- c. 純利益
- d. PER

15. 「日経アジア 300」は、アジアの 11 の国・地域を対象に、[27] 時価総額、[28] 成長性、知名度などを基準に選定した約 300 社の有力企業で構成されている。

要 旨

農業は鹿児島県の地域経済の基幹産業であり、令和3年の農業産出額は全国2位である。お茶も静岡県に次いで生産量第2位である。令和元年には、産出額で静岡県を抜き初めて全国1位になった。このように、「かごしま茶」は生産量・産出額ともに増加傾向にあるのだが、全国的にはまだまだ知名度、ブランド力が伸び悩んでいる。その理由の1つに挙げられるのが、かごしま茶の大部分が仕上げ加工過程において他産地の茶にブレンドされ他産地のブランド名を冠して流通していることである。また、生産現場では少子高齢化による後継者不足等で労働力確保や、機械・施設の老朽化への対処や規模拡大、PR活動による消費喚起が課題となっている。

このような課題を解決していくためには、かごしま茶の魅力を国内・海外の消費地へPRしたり、AIやIoT等の先端技術を用いたアグリテック農業を目指し労働力確保等を行ったりすることが必要となる。

そこで、茶産業が抱える問題点の解決、SDGsの実現、地域活性化、かごしま茶のブランド力向上を行い、かごしま茶の潜在的な価値を高めれば、今後も大いに期待・発展できるという考えに至り我々のポートフォリオを構築した。

目 次

要旨・目次	5
1. 暮らしや経済の変化と経済との関係	
【1-1】 社会的課題とその理由、経済や企業活動への影響	6
2. 投資テーマの決定	
【2-1】 1-1等に基づき決定した投資テーマ	8
【2-2】 2-1の投資テーマに関する記事や情報	8
【2-3】 調査研究・フィールドワーク	10
3. ポートフォリオの作成	
【3-1】 決定した投資テーマに基づく投資する企業（銘柄）の選び方	16
・第1スクリーニング	16
・第2スクリーニング	18
・第3スクリーニング	20
【3-2】 組み上げたポートフォリオ（ファンド）	21
【3-3】 選定した企業の紹介	23
【3-4】 ポートフォリオの値動き	25
4. 投資家へのアピール	27
5. 日経ストックリーグを通して学んだこと	29
6. 参考文献	30

1. 暮らしや社会の変化と経済との関係

【1-1】社会的課題とその理由、経済や企業活動への影響

課題	選んだ理由	経済や企業活動への影響
少子高齢化社会/ 後継者不足	日本は少子高齢化が進んでおり、後継者不足が深刻化している。農産業も例外ではなく、後継ぎ不足に悩まされているので、対応策を考える必要があると考えたため。	少子高齢化が進むと人口が減少し、国内の需要が低下して、経済規模の縮小を招く。また、人口が減少することで人材不足や人件費の高騰、業績の悪化など企業活動への影響も懸念される。 (2030年問題)
地域活性化	鹿児島県は人口減少が進んでいて活気が無くなりつつある。そこで、県の特産品やブランド力を用いた魅力発信を行うことで、地域の活性化に尽力したいと考えたため。	若者が進学・就職して出ていくことで、地方の過疎化が進み衰退すると、経済が回らなくなる。特産品や自然環境など地域特有の経営資源を用いることで、地域を活性化することが求められる。
先端技術/テクノロジー	AI や IoT などの先端技術を活用することで、生産性の向上や労働力不足の解消が見込める。農産業においても、大規模生産や農作業の効率化を進めることができると考えたため。	新たな技術が普及することで、新規需要の創出が見込める。また、人口減少による労働力不足の解消や作業の効率化を行うことができる。一方、雇用の減少や責任の所在の不明瞭さ、導入コストの増加などの問題もある。

◎かごしま茶の概要

1. 生産量・栽培面積（令和4年）

荒茶生産量は 26,700 トン（全国シェア 34.6%）

茶栽培面積は 8,250 ヘクタール（全国シェア 22.4%）



(鹿児島県公式 HP)

2. 特徴

- ・外観は緑色が濃くツヤがあり、形が良くそろっている。
- ・香味はふくよかで濃厚。うまみに富んでいる。
- ・水色は濃く、ふかみがありきれいな色である。
- ・温暖な気候を活かし、早生から晩生品種まで多様な品種を栽培している。
そのため、摘採期間が長く、様々なニーズにあったお茶を生産している。

3. 主なかごしま茶の品種

やぶきた 全国に普及している広域適応性の代表品種である。
収量、品質ともに優れており、新鮮な香りと味の濃さを倍増する香気を持っている。

ゆたかみどり	鹿児島の早生品種の中で、最も栽培面積が多く、温暖地帯に適した品種である。 摘採前に被覆し、深蒸しで製造することにより、濃厚なうま味とコクのある味になる。
さえみどり	早生品種で澄んだ青みの水色が特徴。うま味成分のアミノ酸含有量が多く、カテキン含量が少ないので甘く感じられる。
あさつゆ	摘採前に被覆し、深蒸しで製造することにより、濃厚な水色とうま味が得られる。 また、天然玉露とも言われている。
あさのか	鹿児島県で育成された品種でうま味成分のアミノ酸、渋み成分のカテキンともに多く、甘味渋味ともに強い個性的な品種である。

(鹿児島茶業会議所 HP)

4. 他産地より優れている点

鹿児島の茶畑は平坦な茶園が多く、土地の特製を活かし大型機械の導入を進めたことで、摘採の効率化、さらに茶畑の規模拡大が進んだ。また、4月の一番茶から10月の秋冬番茶まで出荷時期の切れ目がないことや、いろいろな種類のお茶を栽培していることにより、年間を通じておいしいお茶が楽しめる。



(鹿児島県茶業会議所 HP)

2. 投資テーマの決定

【2-1】 1-1等に基づき決定した投資テーマ

【投資テーマ】 鹿児島茶の普及

[理由：全国第二位の生産地]

1. 鹿児島茶の今

鹿児島県は静岡県に次いで全国第二位の荒茶生産量を誇るお茶の産地である。2022年度の荒茶生産量は約2万6700トンにのぼり、農業産出額は239億円となっている。九州の最南端にあり、一年を通して温暖かつ日照条件に恵まれた土地は茶の栽培に最適な風土を備えている。そのため、新茶の出荷が日本で一番早いことも特徴だ。栽培面積は年々減少傾向にあり、平成28年から令和4年までの間に約300ヘクタール減少。現在は8,250ヘクタールと全国シェア22.4%を占めているが、平坦な茶園が多く大型機械化に適しているため、高い生産量と収穫高を維持している。気候が温暖なため生育が早く、日本で一番早く新茶が出回り、また早生から晩生品種まで栽培品種が多いのも特徴の一つである。

2. 鹿児島茶の歴史

今でこそ全国第二位の生産量を誇る鹿児島だが、お茶の栽培が本格的に始まったのは第二次世界大戦以降と、他の名産地と比べるとだいぶ遅咲きである。もともと茶葉の栽培に適した土地だった鹿児島に栽培技術や機械設備の導入が進み、生産量を大幅に増やすことに成功したが、まだ当時は単独で市場に売るには認知度が低く、他の名産地のブレンド用として出回ることが多かった。1985年頃から鹿児島茶のブランド化として県が力を入れ始め、1993年には県が鹿児島茶を推し進める活動としてクリーンなかごしま茶づくり運動が始動。かごしま茶というブランド名もそのときに名付けられた。

3. 鹿児島茶の課題

生産の機械化や茶畑の集約化により生産規模を拡大してきた鹿児島だが、近年は従事者の減少や高齢化、後継者不足などにより、倒産や廃業が見込まれる業者も増えてきている。ペットボトル飲料の消費量は常に一定の水準を保っているが、茶葉から淹れる緑茶であるリーフ茶の消費量は悪くなる一方であり、1kgあたりの荒茶価格の平均も低下傾向にあるなど、生産者にとって苦しい現状が続いている。

【2-2】 2-1の投資テーマに関する記事

分野	日付	出所	内容（概要）	選んだ理由
環境問題	2023/11/21	日本経済新聞電子版	静岡県は静岡大学や静岡県立大学と連携し、茶畑の二酸化炭素貯留量を解析する研究を開始。	温室効果ガスの排出削減量や吸収量が見える化することで、茶農業の付加価値を高めるため。

	2022/7/14	日本経済新聞電子版	中部電力など 3 社は脱炭素に向け、静岡県内にある 2 カ所の茶畑で二酸化炭素削減の実証実験を始めた。	農作物の廃棄物を分解する過程で発生する二酸化炭素の抑制効果が期待出来るため。
	2021/4/9	日本経済新聞電子版	造形品を手掛ける TAPP は廃棄茶葉を使う植木鉢を企画・開発。	土に埋めると水と二酸化炭素に分解されることで、プラスチックごみの削減に期待できるため。
スマート農業	2023/6/17	日本経済新聞電子版	伊藤園と富士通は AI 画像解析により茶葉の摘採時期を判断する技術を共同開発。	茶葉の適切な摘み取り時期を判断する従来の手順を大幅短縮し、畑で撮影した作物の画像分析で適切な時期が推定可能になるため。
	2022/3/3	日本経済新聞電子版	九州では自動運転農機の開発や導入実験が進んでおり、鹿児島県で松元機工が自律走行する茶摘み機などを開発。	茶摘み機は茶葉を自動収穫するほか、畑に動物などが侵入した際は AI が検知し警報を出すなど、農業従事者不足を補う鍵となるため。
	2020/8/11	日本経済新聞電子版	製茶機械大手のカワサキ機工は、茶園での農作業を自動で記録するサービスを開始。	茶の生産性の向上を図り、国内の茶業振興に繋げるため。

販路拡大	2023/7/13	日本経済新聞電子版	国内最大の日本茶の産地である鹿児島県南九州市は、知名度向上のための取り組みを進めている。	生産量が減少する知覧茶の知名度やブランド力を強化し、生産額の増加に繋がる見込みがあるため。
	2022/1/27	日本経済新聞電子版	アサヒ飲料は鹿児島県産の国産茶葉を100%使用した和紅茶を全国発売。	コロナ禍の健康志向の高まりで、香りが特徴の無糖茶の市場は5年で3割拡大。女性層の需要を取り込めるため。

【2-3】調査研究・フィールドワーク・企業アンケート

私たちは6月30日、実際に鹿児島茶業会議所様とJA鹿児島県経済連茶事業部様に同時にインタビューをさせていただきました。

☆鹿児島茶業会議所

JA鹿児島経済連茶事業部 様



(鹿児島茶業会議所)

鹿児島茶業会議所様は、鹿児島県内において茶の製造、流通、販売に係るものが、相互に適正化その他の茶業振興に関する事業を行っている。

(JA鹿児島経済連茶事業部)

JA鹿児島経済連様は、県下のJAや関連会社と連携し、農家の経営安定と生活向上をはかるとともに、生活者の暮らしと健康を守るため「販売事業」「購買事業」「加工事業」を主軸にさまざまな事業を行っている。



【質問】

Q1.かごしま茶のPR活動強化と消費喚起について具体的な活動はあるのか。

鹿児島県のお茶については、機能分担がされており、かごしま茶全体のPRとしては鹿児島県茶業会議所が担っています。鹿児島県経済連は県内茶の卸売業務を行うことが、機能分担になっていますので、県内の生産者の製造したお茶を県内の茶商の方々に入札会場で販売することが主な業務となっています。

鹿児島県茶業会議所が取り組んでいるPR事業は、以下の通りです。(一部経済連あり)

- ・ 県外の茶専門店に対し、鹿児島茶のPRのお便りや季節のトピックス等をつなげて販売に繋げる活動。
- ・ アミュ広場や県外のイベント会場で、百円茶屋を開催し、県内外の方に百円でお茶とお菓子を楽しんでいただく活動。
- ・ 県内小学校で美味しいお茶のいれかた教室を実施する活動。(日本茶インストラクター協会鹿児島県支部、一部茶事業部も実施) PRについては以下のような内容です。
- ・ テレビCM
- ・ Aコープなどでの販売支援(JAかごしま茶業、経済連)
- ・ 羽田空港でのCM(鹿児島県経済連)
- ・ 海外の茶取り扱い店と鹿児島の茶商との商談会(鹿児島県茶業会議所)、等です。



Q2.かごしまのお茶産業の課題は何か。

現在の課題は、お茶産業が衰退してきていることです。

その元になることは、国内のお茶の消費量が減少しているため、茶葉が以前より供給過剰気味になっており、またペットボトルの需要の割合が増えており、原料となる価格が安くなることも要因の一つです。農家収入が少なくなると、生産にかかる費用を減らさざるを得ません。もしくはお茶栽培を辞める農家さんも徐々に多くなっています。

Q3.かごしま茶をどう売り出したいと考えているか。

経済連としては市場を通じた販売を進めていきたいと思っています。

また、海外への取引が広がるように販売をして、農家収入が増やせるような取り組みを進めていきたいと考えています。

この質問のほかにもお話する中でいくつかお答えいただいた。(一部紹介)

- ・ 鹿児島県はほかの県に比べて乗用型摘採機の普及率が高い。これは、あらかじめ機械が利用できるような茶園を作っているから。
- ・ Q2の課題の他に鹿児島県は歴史が浅いため、鹿児島県から直接大消費地に取引を行う整備が整っておらず、取引が難しい。
- ・ かごしま茶のブランドマークを作成。かごしま茶の知名度の向上を図る。このマークを使用できるのは、鹿児島県茶業会議所が定める要領による審査に合格した仕上げ茶のみ認められている。

私たちは9月20日、実際に南九州市役所茶業課様と後山製茶様、下窪勲製茶様にインタビューさせていただきました。

【南九州市のお茶産業の紹介】

南九州市の茶業は約350年の歴史がある。平成19年に知覧島、穎娃町、川辺町が合併し南九州市誕生、それと同時に国内最大級の”お茶産地”となりました。

現在3,425ha(東京ドーム約730個分)の広大な茶園で641戸の生産者102の茶工場が丹精込めて約13,000トン(鹿児島県内約50%)の荒茶を生産しており、生産額は約130億円を誇り、穎娃茶や川辺茶を知覧茶ブランドとして統一し、国内外で販売されています。

また、全国茶品評会等で産地賞や農林水産大臣賞等の特別賞を連続で受賞し、さらにお茶の安全性や品質管理を行う、GAPやISO、有機JAS等の第三者認証についても積極的に取り組み、76の茶工場が認証取得しており、全国の茶業関係者から大きな期待を寄せられている産地となっております。

☆南九州市役所 茶業課 様

Q1. どのようなPRを行っているか

お茶のイベントに参加して下さる方々の年齢層が高いことを受け、若い世代への発信を考えている。現在は、インスタライブを活用し、オンラインスクールを行ったり、武家屋敷や知覧特攻平和公園で対面イベントを行ったりしている。ほかにも県外の方へ向けて鹿児島を中心に全国各地からアンバサダーを募集し、イベントを展開している。この中には海外国籍の方も存在し、その方には自国へのPRを行ってもらっている。

Q2. 海外への輸出について

現在、海外では抹茶の需要が拡大。鹿児島県は抹茶の原料となる碾茶の生産量が日本一である。そのため海外への輸出については、これからさらに進めていく予定。

Q3. 知覧茶のアピールポイント

鹿児島県南九州市の豊かな自然、地形、天候が見事に融合し恵まれた条件下で育てられた知覧茶。それは土壌、水、火、陽、風といったあらゆる自然条件に恵まれたことで、最高品質の多様な品種の生育が可能。知覧茶は海と山々に挟まれた急峻な丘陵地やかつての火山である開聞岳の裾野で、南太平洋の温暖な風がもたらす暖かく湿潤な気候の恩恵を存分に受けてすくすくと育つ。自然の恩恵を存分に吸収した茶葉一枚一枚を持つお茶の木。その生育は大変良く、深い味わいと極上の味と香りを引き出す見事なお茶を創り出している。

☆後山製茶 様

後山製茶様は、南九州市穎娃町にあります。鹿児島県の中でも早場産地です。

Q1. 実際に働いて困っていること

働き手が足りない。

需要より供給の方が多い。

単価が低いのに生産コストが上昇。



機械でできない仕事があり、大変。

Q2. 急須で飲むこと

ペットボトルよりおいしく栄養価が高い。→急須で淹れたお茶の味が違うことを知ってほしい。

Q3. 生産者同士の交流は

生産者同士で情報交換ある。地元の青年の会、女性の会に所属しイベントなどを行っている。(参考：NPO 法人 穎娃おこそ会など)

Q4. 早場産地のメリットや感じること

一番茶を早く売ることができる。しかし一番茶が大変重要となり、結果的に市場依存になりがち。

Q5. こだわりは

色を鮮やかに出すこと。土づくりから重要。

☆下窪勲製茶 様

下窪勲製茶様は、南九州市穎娃町にあります。後山製茶様と同じく早場産地です。

Q1. 実際に働いて困っていること

お茶の価格。茶のみが下がっているにも関わらず、物価の上昇。

三番茶や四番茶、秋冬番茶がどれくらい売れるか判断が難しい。そのため、かぶせをするか、かぶせをしないのか考えなければならぬ。

Q2. 小売りなどはしているか

小売りも問屋さんへの販売も行っている。下窪勲製茶様は、20年付き合いがある

東京の問屋さんへ会って直接販売している。さらに東京の問屋さん以外の問屋さんとも関わりがあり意見も聞きながら、県内外で連携もとっている。また三番茶以降は台湾等へ販売している。

Q3. こだわりは

色より味と香り。気候に合わせたお茶作りを行っている。そのほかにも畑や工場に合ったお茶作り。



私たちは9月29日、実際に今吉製茶様にインタビューさせていただきました。

【霧島市のお茶産業の紹介】

天孫降臨の地『霧島』はその名のとおり霧が深く立ち籠め、香り高く美味しい茶を育みます。

霧島市牧園町稼原台地には、かつて日本一と称された大茶樹があり、不老長寿の茶として鹿児島神宮・霧島神宮へ奉納されていました。

平成19年に県内先駆けて銘柄統一した『霧島茶』は、これまで7回の日本一（全国茶品評会産地賞第1位）に輝くだけでなく、有機JAS認証茶園面積においても日本一であり、九州内で初めて有機碾茶(抹茶の原料)を製造し、良質茶を生産しつつも時代のニーズに合わせた多種多様な茶を育む産地です。

☆今吉製茶 様

今吉製茶様は、霧島市溝辺町にあります。
鹿児島の中でも遅場産地です。

Q1. 鹿児島茶を国内か国外どちらに販売したいか

現在、都会でも値段が低く海外でないと売れなくなってきている。有機栽培を行い、台湾とアメリカへ販売している。

Q2. 急須でのむこと

日本人は、急須でお茶を飲む人は減少してきている。反対に海外では急須で飲むことを好む人が多い。

急須で飲むお茶の美味しさを知って欲しい。

Q3. 人手は足りているか

今吉製茶様では、煎茶と碾茶の二つの工場が稼働している。一番茶の際は、20時間に及びフル稼働しており、その間工場を見守る必要がある。そのため人手が足りない場合もある。

Q4. 小売りなどはしているか

今吉製茶様の場合、先代が早くから小売り事業を行っていた。現在はカフェを経営しており、私たちが訪れた際も多くのお客様で賑わっていた。カフェのほかにも、ホームページやECサイトで販売を行っている。遅場産地だからこそ、小売りをし、売り込みを行っている。

Q5. 霧島市であることのメリット、デメリット

メリットは、観光地であること。何かのついでに訪れることができる。またこれからの発展も期待できる。デメリットは、遅場産地であること。早場産地に比べて一番茶の出荷が遅れてしまう。



私たちは9月30日、実際にマル竹園製茶様へインタビューさせていただいた。

☆マル竹園製茶の奥 様

マル竹園製茶様は、霧島市隼人町にあります。今吉製茶様と同じく遅場産地です。

Q1.生産者として思うこと

現在過渡期であると思う。行政が、海外輸出などにシフトして、大規模工場に、幾重にも畑の大型の管理機械や工場の機械などに事業補助金等を支援する事は仕方ないと思う。しかし、国内流通にも一部流入しており、自由競争ではなくなるため、自力で茶園や工場を経営している中小の家族経営者などへの影響についての配慮が不足しているのではと思う。

Q2 人手は足りているか

市内のシルバー人材センターから、長年継続してきてくれる方々に支えて頂き今の所大丈夫だが、数年後は心配である。労働者を大切に、労働環境への配慮は欠かせない。

Q3 人口減少でお茶の消費も減っていくとされているが、何か対策はあるか。

まず、上級茶を作り続ける事。

自分にできることは、地道にお茶の楽しみ方講座、青空茶会などを開講する。手軽に本物のお茶が飲めるような新しい方法を伝える。茶畑や工場に足を運んでもらいファンを増やす。茶農家、茶商、菓子屋、雑貨屋、飲食店、お茶カフェなど全体を巻き込みながら、お茶文化の再構築をはかる活動を行う。

Q4 かごしま茶のいいところ

お茶の種類や品種が多い。いろいろな品種に合わせた栽培管理、製造の技術力が高い。温暖な気候と品種の組み合わせにより茶期を長くできる。平地が多く大型機械での作業が可能である。茶産地が近観光地に近い。

Q5.どんなイベントがあれば出展したいか

茶時期を外して、自分自身が動ける時期にあるイベント。

Q6 どのようなPRをしたいか。

体験型のイベント

(現在、実際に鹿児島県の志学館大学にて隼人学"五感で感じる緑(エン)ジョイ霧島茶"を開講。茶畑にて青空茶会も開催している)実際のお茶に触れたり、飲んだりして、何気なく飲んでいるお茶の奥深さに気付いてほしい。

3. ポートフォリオの作成

【3-1】決定した投資テーマに基づいて投資する企業（銘柄）として気になった企業を探し、分野ごとに「人材派遣」・「流通」・「食品」・「広告」・「金融」・「イベント」・「飲料」・「アグリテック」・「機械整備」・「通信」に振り分けていった。

分野	投資理由
人材派遣	農業従事者の高齢化が進み後継者不足が課題となっており、茶産業の人手不足を解消が必要であるため。
流通	お茶を国内・海外に向けて販売するため。
食品	お茶の消費量を増加させ、生産量を増やすため。
広告	かごしま茶の知名度を上げ、かごしま茶の魅力を伝えるため。
金融	生産するために必要な機械のコスト問題を解消させるため。
イベント	かごしま茶の知名度を上げ、かごしま茶の魅力を伝えるため。
飲料	お茶の消費量を増加させ、生産量を増やすため。
アグリテック	人手不足や農作業の簡略化など農業の課題を解決するための最新技術を導入するサポートを行うため。
機械整備	農作業に使用する機械の整備を進め、人手不足などの課題を解決するため。
通信	アグリテックで必要となる機器の通信設備の強化やネット販売を行うため。

第1スクリーニング

・第1スクリーニングの結果、分野ごとにお茶や農業と関係がありそうな61企業を抽出した。

分野	企業	証券コード
人材派遣	リクルートホールディングス	6098
	エン・ジャパン	4849
	パーソルホールディングス	2181
	フルキャストホールディングス	4848
	テクノプロ・ホールディングス	6028
	ディップ	2379
流通	ANAホールディングス	9202
	日本航空	9201
	SGホールディングス	9143

	福山通運	9075
	九州旅客鉄道	9142
	ヤマトホールディングス	9064
	近鉄グループホールディングス	9041
	京阪ホールディングス	9045
	日本郵船	9101
食品	佐藤食品工業	2814
	日本ハム	2282
	山崎製パン	2212
	仙波糖化	2916
	石垣食品	2901
	森永乳業	2264
	ブルボン	2208
	不二家	2211
	B-R サーティワンアイスクリーム	2268
	森永製菓	2201
広告	電通グループ	4324
	博報堂DYホールディングス	2433
	セブテーニホールディングス	4293
	Macbee Planet	7095
	バリューコマース	2491
	サイバーエージェント	4751
金融	三菱 UFJ フィナンシャル・グループ	8306
	三井住友フィナンシャルグループ	8316
	ゆうちょ銀行	7182
	九州フィナンシャルグループ	7180
	南日本銀行	8554
	みずほフィナンシャルグループ	8411
イベント	インターライフホールディングス	1418
	博展	2173
	アマナ	2402
	ニシオホールディングス	9699
飲料	アサヒ	2502
	キリンホールディングス	2503
	コカ・コーラ BJI	2579
	サントリー食品インターナショナル	2587
	ライフドリンクカンパニー	2585

	ティーライフ	3172
	明治ホールディングス	2269
	伊藤園	2594
アグリテック	オプティム	3694
	アステリア	3853
	農業総合研究所	3541
	富士通	6702
機械整備	クボタ	6326
	井関農機	6310
	タカキタ	6325
通信	KDDI	9433
	NTT	9432
	ユニリタ	3800
	ソフトバンク	9984

第2スクリーニング

・各企業の財務諸表をもとに、「自己資本比率」・「BPS」・「PER」・「ROA」・「営業利益成長率」を求め、点数化して判断した。成長率を出すために、「営業利益成長率」のみ直近3年分の平均値で判断することにした。その結果、26企業を抽出した。

自己資本比率 (equity ratio)	$自己資本 \div 総資産 \times 100$	安全性	自己資本比率が高いと負債が少ないため健全性が高い。
BPS (1株当たり純資産)	$純資産 \div 発行済み株式数$	安全性	BPSが高いと純資産が多いため、安定性が高い。
PER (株価収益率)	$株価 \div 一株当たり利益$	割安性	PERが低いと株価が割安である。15倍が目安。
ROA (総資産利益率)	$当期純利益 \div 総資産 \times 100$	収益性	ROAが高いと資産を有効活用できていることを示す。
営業利益成長率 (過去3年分)	$\frac{当期営業利益高 - 前期営業利益高}{前期営業利益高} \times 100$	成長性	営業利益成長率が高いと平均的に企業が成長している。

※営業利益成長率は過去3年間で赤字から黒字化した企業には一律1点を加算、黒字から赤字化した企業、3年間赤字の企業には一律0点としている。

※分野別平均では極端に点数の悪い企業（石垣食品、アマナ）は除いた。

※5社以上ある分野で平均値の低い分野（金融）は加点した。金融は一律3点（自己資本比率+2点、ROA+1点）加算。

※金融分野は営業利益成長率を経常利益成長率で計算している。

第3スクリーニング

◎第3スクリーニングの評価方法

① 農業・茶産業への貢献度（計5点）

A：お茶に関する事業に取り組んでいる企業・・・5点

B：農業に関する事業に取り組んでいる企業・・・3点

② 地域活性化（計3点）

C：地域の資源を活用しているか・・・1点

D：地域活動に対する寄付や支援を行っているか・・・1点

E：地域住民や地元の中小企業・自治体との関わりがあるか・・・1点

③ SDGs（計3点）

8:働きがいも経済成長も	左記の5つのうち
9:産業と技術革新の基盤をつくろう	全て行っている・・・3点
12:つくる責任使う責任	3個以上行っている・・・2点
13:気候変動に具体的な対策を	1個以上行っている・・・1点
15:陸の豊かさを守ろう	全く行っていない・・・0点

④ 労働関係（計2点）

F：プラチナくるみんを取得している企業・・・1点

G：プラチナえるぼし認定を受けている企業・・・1点

⑤ 海外進出（計1点）

企業内に海外部門があるか・・・1点

⑥ リスクマネジメント（計1点）

主要事業や部門に対するリスクマネジメントを行っているか・・・1点

分野	人材派遣			流通				食品				広告		金融		イベント	飲料			アグリテック	機械整備			通信			
企業名	フルキャストホールディングス	テクノプロ・ホールディングス	ディップ	ANAホールディングス	SGホールディングス	福山通運	九州旅客鉄道	日本郵船	佐藤食品工業	森永乳業	不二家	セブテーニホールディングス	Macbee Planet	バリューコマース	九州フィナンシャルグループ	南日本銀行	ニシオホールディングス	アサヒ	サントリー食品インターナショナル	ティーラ イフ	富士通	クボタ	井関農機	タカキタ	KDDI	ユニリタ	
証券コード	4848	6028	2379	9202	9143	9075	9142	9101	2814	2264	2211	4293	7095	2491	7180	8554	9699	2502	2587	3172	6702	6326	6310	6325	9433	3800	
A				5						5	5							5	5	5	5						
B	3	3			3		3	3	3					3	3	3							3	3	3	3	3
①	3	3	0	5	3	0	3	3	3	5	5	0	0	3	3	3	0	5	5	5	5	3	3	3	3	3	
C				1			1								1			1	1				1				
D		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
E		1	1	1		1	1			1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
②	0	2	2	3	1	2	3	0	1	2	2	2	0	1	3	2	2	3	3	2	2	3	2	1	2	2	
8	1	1		1	1	1		1		1	1	1		1	1	1		1	1	1	1	1	1		1	1	
9	1	1		1	1			1		1		1		1	1			1		1	1	1	1	1	1	1	
12						1				1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
13		1		1	1			1		1	1			1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	
15		1				1				1	1				1	1	1		1	1		1	1			1	
SDGs数	2	4	0	3	3	3	0	3	0	5	4	2	0	4	5	4	3	3	5	4	4	4	5	3	4	1	
③	1	2	0	2	2	2	0	2	0	3	2	1	0	2	3	2	2	2	3	2	2	2	3	2	2	1	
F							1	1		1								1		1							
G															1	1											
④	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	
⑤		1		1			1	1		1	1	1		1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
⑥		1	1	1		1		1	1		1	1	1	1	1	1		1	1		1	1	1	1	1	1	
3合計	4	9	3	12	6	5	8	8	5	12	11	5	1	8	12	9	5	12	14	10	12	10	10	8	9	8	
2合計	27	21	19	14	23	23	19	30	18	20	20	20	20	27	18	21	24	24	22	22	26	21	22	25	23	23	
2,3合計	31	30	22	26	29	28	27	38	23	32	31	25	21	35	30	30	29	36	36	32	38	31	32	33	32	31	

第2スクリーニング（32点満点）、第3スクリーニング（15点満点）の合計（47点満点）を元に15企業に絞った。

【3-2】3-1のスクリーニングにより組み立てたポートフォリオ

ポートフォリオ（ファンド）名 : **かごしま茶を世界へ**

証券コード	企業名	主要市場	購入金額	構成比
4848	フルキャストホールディングス	プライム	¥357,588	7.15%
9202	ANA ホールディングス	プライム	¥220,896	4.42%
9143	SG ホールディングス	プライム	¥285,390	5.71%
9101	日本郵船	プライム	¥450,546	9.01%
2264	森永乳業	プライム	¥307,608	6.15%
2211	不二家	プライム	¥299,880	6.00%
2491	バリューコマース	プライム	¥370,872	7.42%
7180	九州フィナンシャルグループ	プライム	¥286,708	5.73%
9699	ニシオホールディングス	プライム	¥282,030	5.64%
2502	アサヒ	プライム	¥408,096	8.16%
2587	サントリー食品インターナショナル	プライム	¥369,641	7.39%
6702	富士通	プライム	¥374,110	7.48%
6310	井関農機	プライム	¥312,075	6.24%
6325	タカキタ	スタンダード	¥334,767	6.70%
9433	KDDI	プライム	¥304,986	6.10%
現金			¥34,807	0.70%
合計			¥5,000,000	100.00%

【3-3】選定した企業の紹介

分野：人材派遣	企業名：フルキャスト ホールディングス	証券コード：4848	第2・3スクリーニング：31
【着目点】シニア層や外国人材など、農業で人材確保が困難になっていく中、人種や国・性別・年齢に拘わらず、幅広い分野で人材手配や雇用支援をしている。			
分野：流通	企業名：ANAホールディングス	証券コード：9202	第2・3スクリーニング：26
【着目点】食などをテーマに、全国を特集する Tastes of JAPAN by ANA という事業を展開。お茶をサービスに取り入れ、ウェブサイトや機内誌や番組などを通じて国内外に発信している。			
分野：流通	企業名：SGホールディングス	証券コード：9143	第2・3スクリーニング：29
【着目点】全国に広がる物流施設や輸送ネットワークにより、法人顧客中心のデリバリー事業を展開。海外におけるグローバルネットワークは東アジアから南アジア、東南、欧州や北米などさまざまな地域に拡大しており、海外事業に期待できる。			
分野：流通	企業名：日本郵船	証券コード：9101	第2・3スクリーニング：38
【着目点】定期船事業において、世界最大級の航路ネットワークを構築。流通企業の中でも自己資本比率や営業利益成長率がかなり高く、優良企業とみた。			
分野：食品	企業名：森永乳業	証券コード：2264	第2・3スクリーニング：32
【着目点】食品の開発において、乳だけでなく緑茶を使った商品の販売もしている。森永乳業独自の技術で商品開発を行う。赤ちゃんから高齢者までの健康を第1と考え、安心安全に食を提供しているので、かごしま茶を安心安全に活用できるのではないかな。			
分野：食品	企業名：不二家	証券コード：2211	第2・3スクリーニング：31
【着目点】飲料事業において、缶やPETボトル、チルド飲料の卸売や、農業（JA全農）とも協同して、共同開発商品を手掛けている。鹿児島茶を使ったお菓子も販売。国産農畜産物のPRやキャンペーンなどを展開させて、商品を通じ、産地を支援。また、海外戦略・進出計画策定および海外拠点支援・輸出支援を行う。			
分野：広告	企業名：バリューコマース	証券コード：2491	第2・3スクリーニング：35
【着目点】SNSが普及していく中で、SNSプラットフォームでのアフィリエイトの展開を行い、広告主も安心安全に利用でき、メディアネットワークの差別化を拡大している。マーケットが著しく成長した海外市場への展開のための挑戦にも練っている。			
分野：金融	企業名：九州フィナンシャルグループ	証券コード：7180	第2・3スクリーニング：30

【着目点】金融機能だけでなく、地域行事やボランティアへの参加も積極的に関わり、鹿児島県の地元住民と深く交流している。SDGsへの取り組み、持続可能な開発のための事業の評価も高い。			
分野：イベント	企業名：ニシオホールディングス	証券コード：9699	第2・3スクリーニング：29
【着目点】情報化施工に取り組み、専用重機の導入を進めており、付加価値の向上に期待できる。積極的なAI導入により、イベントでの単純作業や苦渋作業も解消されやすい。イベントでの映像や音響機材などのレンタルサービスを提供。			
分野：飲料	企業名：アサヒ	証券コード：2502	第2・3スクリーニング：36
【着目点】お茶飲料の種類が豊富で、ペットボトルはユニバーサルデザインを取り入れている。ペットボトルに掲載されているパッケージの情報は安心安全さを第1に、商品・表示部会を設けて、各商品ジャンルごとに必要な表示の内容を規定している。			
分野：飲料	企業名：サントリー食品インターナショナル	証券コード：2587	第2・3スクリーニング：36
【着目点】SDGsへの取り組みとして、水への取り組み、農家に対して再生農業を通じた水利用の評価・支援を行うプログラムを開始。海外においても、水資源を守ろうと、水育として教育プログラムも行っている。また、ペットボトルの利用に関し、ペットボトルをサステイナブルにするため、リサイクル素材や植物由来素材に切り替えている。			
分野：アグリテック	企業名：富士通	証券コード：6702	第2・3スクリーニング：38
【着目点】お茶農業に対し、茶葉の摘採時期を簡単に判断できるよう本技術の確立に向け、農業と協働して生産力向上を目指している。農業の雇用創出と就農者の若返りを目標とし、AI画像解析により簡単にさせ、その技術を共同開発し、運用している。			
分野：機械整備	企業名：井関農機	証券コード：6310	第2・3スクリーニング：32
【着目点】農業女子へのプロジェクトやセミナーも実施。生産性向上のための部品集積システムや、組み立て指示管理システムなど、AI技術も含め、画像認識ツールや熟練工のノウハウのデジタル化・作業標準のシステム化などの生産支援を行っている。			
分野：機械整備	企業名：タカキタ	証券コード：6325	第2・3スクリーニング：33
【着目点】農業での施肥や防除、刈取、集草、運搬、雑草処理などそれぞれに必要な機械が豊富。SDGsへの取り組みを通じ、有機農業に貢献、持続可能な農業生産が期待される。			
分野：通信	企業名：KDDI	証券コード：9433	第2・3スクリーニング：32
【着目点】太陽光や蓄電池などエネルギー資源をICTなどを活用し、カーボンニュートラルに取り組んでいる。また、金融サービスも取り入れ、スマートマネー構想として、ファイナンス連携などグループ経営体制の確立を行う。			

【3-4】ポートフォリオの値動き

◎ポートフォリオ分析

1. はじめに

ポートフォリオのパフォーマンスを評価するにあたって、過去1年間(2022年12月～2023年11月)の月次ベースのパフォーマンスを、ベンチマークとしたTOPIX及び日経平均株価指数と比較した。

評価方法として、

- ① 2022年12月末終値ベースで資産配分割合に従ってポートフォリオを構築し、2023年11月末日まで保有していた場合の本ポートフォリオの資産価額の推移をTOPIX及び日経平均株価指数と比較する。
- ② 運用効率を測定するために本ポートフォリオのシャープレシオを算出しTOPIX及び日経平均株価指数と比較する。

の2つの方法を用いた。

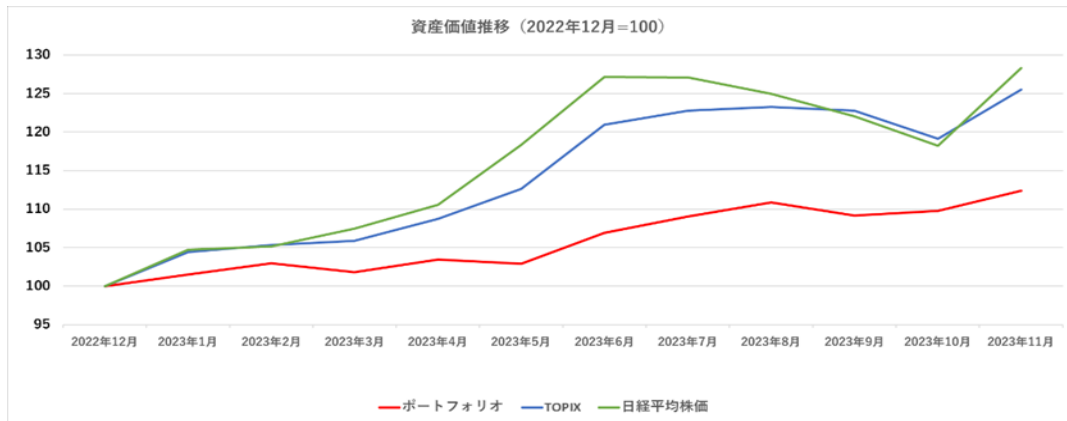
2. ポートフォリオ構築

対象15銘柄について、投資資金500万円の銘柄別配分額に従い、2022年12月末終値ベースで配分額に最も近い金額となるように購入株数(1株単位)を決定した。残金25,958円については、キャッシュで保有することとした。構築したポートフォリオは次の通り。

企業名	証券コード	配分金額	割合	2022年12月末 株価	配分金額÷ 2022/12月末株価	購入株数	購入金額	
フルキャストホールディングス	4848	358,000	7.16%	2,824	126.8	126	355,824	
ANAホールディングス	9202	222,000	4.44%	2,800	79.3	79	221,200	
SGホールディングス	9143	287,000	5.74%	1,830	156.8	156	285,480	
日本郵船	9101	454,000	9.08%	3,110	146.0	146	454,060	
森永乳業	2264	312,000	6.24%	4,995	62.5	62	309,690	
不二家	2211	300,000	6.00%	2,533	118.4	118	298,894	
バリューコマース	2491	372,000	7.44%	1,814	205.1	205	371,870	
九州FG	7180	287,000	5.74%	454	632.2	632	286,928	
ニシオホールディングス	9699	283,000	5.66%	3,115	90.9	90	280,350	
アサヒ	2502	413,000	8.26%	4,119	100.3	100	411,900	
サントリー食品インターナショナル	2587	374,000	7.48%	4,500	83.1	83	373,500	
富士通	6702	382,000	7.64%	17,615	21.7	21	369,915	
井関農機	6310	313,000	6.26%	1,172	267.1	267	312,924	
タカキタ	6325	335,000	6.70%	403	831.3	831	334,893	
KDDI	9433	308,000	6.16%	3,982	77.3	77	306,614	
							4,974,042	
							cash	25,958
							TOTAL	5,000,000

3. 資産価格推移

2022年12月末=100とした時の、本ポートフォリオの資産価額推移とTOPIX及び日経平均株価指数推移は次の通り。



過去1年を振り返ると、日本の株式市場は概ね堅調に推移した。感染症対応のためのさまざまな制約が撤廃され経済活動が活発化したことに加え、国際資源価格の高騰や円安を起因とした物価上昇を受け、大企業を中心に賃金引上げムードが高まりつつある。30年にわたりデフレに苦しんできた日本経済だが、ようやく転換しつつあるとの期待を受けて、年初から夏場にかけて株式相場は堅調に推移した。その後、中東地域での地政学リスクの高まりなどもあり10月以降はやや軟調となっているが、TOPIX・日経平均株価指数ともに年初から11月末までに25%以上上昇した。

本ポートフォリオは一貫してベンチマークより低いパフォーマンスとなった。2022年12月比で2023年11月末での値上がり率は12%とTOPIXの26%、日経平均株価指数の28%に比べて約半分のパフォーマンスとなった。理由としては、相対的に配分金額の多かった2銘柄（フルキャストホールディングス（4848）、バリューコマース（2491））が値下がりした影響による。

4. 運用効率分析

本ポートフォリオのシャープレシオをTOPIX及び日経平均株価指数と比較することで運用効率を分析した。シャープレシオを算出する際のリスクフリーレートには、2022年12月末の10年国債利回り0.454%（出所：財務省HP）を月次化した0.038%を用いた。

	月次リターン平均(a)	リスクフリーレート(b)	(a)-(b)	標準偏差	シャープレシオ
ポートフォリオ	1.082%	0.038%	1.044%	0.016	0.673
TOPIX	2.128%		2.090%	0.028	0.747
日経平均	2.368%		2.330%	0.039	0.594

本ポートフォリオの標準偏差0.016はTOPIX0.028、日経平均株価指数0.039と比較して明らかに小さい。リスク量はベンチマークと比べて低かったと言える。本ポートフォリオの月次リターン平均は1.082%であった。TOPIX2.128%及び日経平均2.268%と比べて低かったが、リスクフリーレート控除後のリターンで算出したシャープレシオは0.673と、TOPIXの0.747と日経平均の0.594のほぼ中間に位置する。ベンチマークと比較した場合、ローリスク・ミドルリターン型のポートフォリオであったと判断できる。

4. 投資家へのアピール

1. 機械化による生産量の維持・拡大

【鹿児島のお茶の特徴】

鹿児島県はお茶の生産を早い段階から機械化することによって、生産量を上げ続けてきた。2019年にはそれまで50年間トップであった静岡を抜き、お茶の産出額で1位となった。鹿児島の機械化が進んだ要因として、南九州市や志布志市などの広大な平地を利用した茶畑に加え、山間地でも乗用型摘採機を導入することを前提とした茶畑を造成したからである。これにより人手不足などが緩和され、静岡ほど人手不足が深刻化していないので生産量の維持・拡大を成し遂げているのである。

【機械化のデメリット】

しかし、その機械化にも欠点がある。それは、機械が故障した時の修理による莫大なコストである。お茶の栽培から製造、販売には様々な機械を用いるがその機械の値段はどれも高額である。実際に農家さんからお話を伺った際には、乗用型茶園管理機や荒茶製造機は数百万～数千万円し、それも2、3年すればガタがくるという。また荒茶工場は生産量の多い工場では茶生産時期はほぼフル稼働させるため、壊れやすく、1つ1つの部品が特殊なためどの部品も買い替えると高額になるという。

【生産性を上げるための投資】

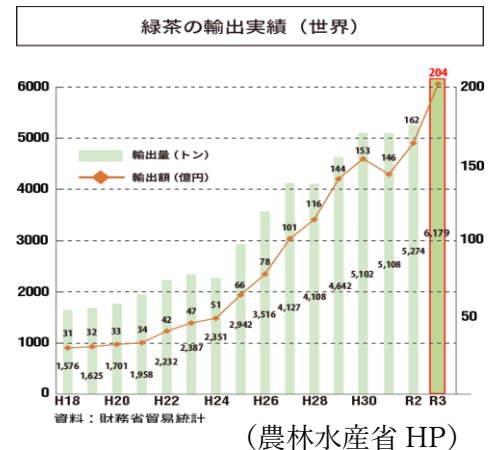
そのため、農業機械の整備の事業を手掛ける**井関農機**や**タカキタ**に投資をすることで農家の方にかかる負担を軽減できるのではないかと考える。さらに、実際に伊藤園と共同で茶葉の収穫時期をAIで判断をする技術を開発した**富士通**に投資をすることで、生産の効率化を目指すことができ、さらなる生産性の向上が望める。また、前述で鹿児島は機械化により静岡よりも人手不足に悩んでいないと述べたが、人手不足がないというわけではない。むしろお話を伺ったどの農家さんも、人手不足が深刻化して悩んでいるというお話を伺った。特に茶畑に寒冷紗をかぶせる「かぶせ」という作業は機械で行うことはできないので、どうしても人の手が必要になるという。そこで、短期で人材の確保ができる**フルキャスト・ホールディングス**や**ディップ**に投資することで人手不足問題の緩和につながるのではないだろうか。

2. 海外の需要の拡大

【世界的な抹茶ブーム】

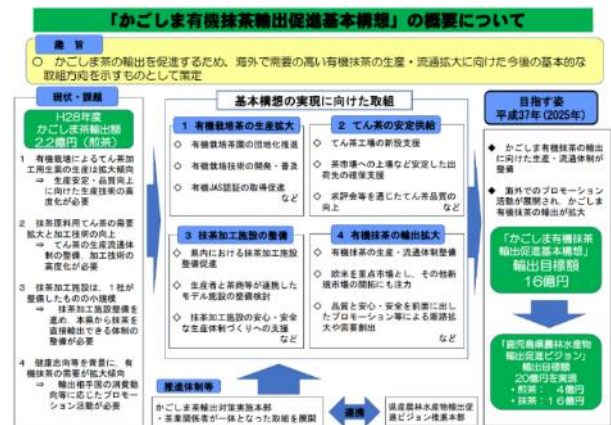
現在の日本国内でのリーフ茶の消費量は年々減少傾向にある。一方で近年、欧米を中心に健康志向のブームとなっている。そのブームに乗っかり日本の緑茶が注目され、年々輸出量は増加している。この輸出される緑茶の大半が粉末状のものとなっており、これは海外で抹茶が人気であるが故だ。さらに、ただの抹茶ではなく有機栽培されている抹茶が好まれている。実際にインタビューした農家さんの中にも、外国人に抹茶を売り出すために抹茶の生産を拡大し、抹茶専用の工場を作り、海外に売り出すことで売り上げを増加させたという農家さんもいた。

こうした抹茶人気は飲料としてはもちろん、食品としても人気が高いため、アサヒやサントリーのような自社独自の抹茶やお茶を生産している企業や、抹茶味のアイスクリームやお菓子を生産する森永乳業、また鹿児島県産の抹茶を使用したミルククリームロールを生産する不二家などに投資をすることで、さらなる抹茶人気につながり茶葉の消費量にもつながるのではないだろうか。



【鹿児島の抹茶輸出の取り組み】

その海外の抹茶ブームに鹿児島県も、海外に向けた抹茶の輸出への取り組みを行っている。鹿児島県は碾茶の生産量全国1位を活かして、有機栽培を重視した抹茶の生産と輸出を計画している。そのため、海外に輸出する手段である海と空の流通面を日本航空と日本郵船に投資することで鹿児島のお茶を輸出しやすくする。



(鹿児島県公式 HP)

【全国各地で行われるイベント】

鹿児島のお茶をより多くの人に知ってもらおうと鹿児島県茶業会議所が主催する「かごしま百円茶屋」というイベントが存在する。かごしま百円茶屋とは、鹿児島の代表的な郷土菓子のセットを100円で頂ける喫茶コーナーである。2008年に鹿児島県茶業会議所が制定した記念日「お茶一杯の日」に誕生し、鹿児島茶を広める催しとして現在も全国各地の鹿児島フェアや鹿児島アンテナショップで開設されている。かごしま百円茶屋の魅力は、ただ鹿児島のお茶と郷土菓子を安価で頂けるだけではない。日本茶のインストラクター・アドバイザーから急須で淹れるお茶の美味しい淹れ方についてその場でアドバイスを受け試飲する事が可能である。実際にこのイベントには多くの人が来客し、外国人や高齢者の姿が多くみられる。このイベントをきっかけにお茶の魅力を伝えられ、その後も鹿児島のお茶を買いに来る人がいるそうだ。しかし、そんな魅力的なイベント



11月23日に行われた百円茶屋の様子

でも若い人達に認知されていないのが現状である。このイベントを主催する茶業会議所は若い人たちにももっとイベントに来て鹿児島のお茶の魅力を知ってほしいと語っていた。そのため、まずはイベント機材やディスプレイのレンタルを行っているニシオホールディングスに投資することでイベントの設営をやりやすくし、より多くの人にイベントを知ってもらうために広告事業を行っているバリューコマースに投資するべきであると考えている。

5. 日経 STOCK リーグを通して学んだこと

◎山崎

日経ストックリーグを通して、投資先を選別する方法として様々な指標を用いた財務分析や CSR や SDGs などの企業が行っている取り組みを調べることなどの方法を知り、投資家の目線で企業の分析を行うことが重要であることを、実際にバーチャル投資を体験することで学ぶことができた。また、鹿児島県が少子高齢化や若者の県外流出などにより人口が減少して活気がなくなってきていることを知り、その課題や問題点に対してどのような方法で対処していくことが必要かについて考えるきっかけになった。鹿児島県が活性化するためには、お茶や焼酎、黒豚などの県の特産品のブランド力を向上させることや、自然環境などその地域特有の経営資源を活用し魅力を発信していくことが1つのアプローチであることを考えることができた。

◎松下

今回の日経ストックリーグを通して、株式を売買するうえでどのように数値を読み取り分析するのか、自分が何を重視してスコアリングするのかについて学ぶことができた。数値を読み取ることで、その企業や分野が成長してきているのか、衰退しているのかがわかるようになりとても勉強になった。数値だけでなく、その企業はどのような取り組みを行っているのか、地域貢献や SDGs への関心など企業を評価するものはたくさんあるのだなと感じた。また、グループワークを通して鹿児島のお茶という新たな発見ができた。お互いに意見し、刺激を与えあうので、テーマの追求を深めることができたと思う。さらに、鹿児島県茶業会議所や農家さんへのインタビューも貴重な体験になったと思う。事前にネットなどで調べていったことでも、インタビューをしたら全く内容が違ったこともあり、実際に会って話をしないと分からないこともあるのだなと実感することができた。今回の経験でお茶という一つのカテゴリにも多くの企業や人がかかわっているのだなと感じ社会の形を実感することができた。

◎若原

日経ストックリーグを通して、投資とは何か、投資において何が重要かを学ぶことができた。私は投資をしたことがないため、投資がもっとシンプルなものだとイメージしていた。しかし実際は、指標を用いたり、選定した企業が地域貢献や SDGs の取り組みを行っているか判断したり、考えることが多くあると学んだ。さらに、鹿児島県の魅力と課題について改めて学ぶことができた。実際にさまざまな生産者様を訪れたが、同じ鹿児島県でも北薩地域と南薩地域ではお茶に対する取り組みが違い、面白いと感じた。またインタビューをしている中で、どの生産者様も自分の仕事に対する誇りや熱意があることを感じ、心打たれた。そして将来自分が働く上でこのように何か熱意をもって励みたいと感じた。最後に、私は鹿児島

県出身ではないため、初めて訪れる場所も初めて知ることにも沢山あった。そのため、学ぶことが常に新鮮で私自身この取り組みを楽しく行うことができ、大変良い経験になった。

◎佐藤

これまで企業のIR情報や投資などに関して触れる機会というのがなかったが、この日経ストックリーグを通し、世のあらゆる企業の経営状況や戦略、資産運用などを知ったことで、経済の動きを深く勉強することができた。鹿児島のお茶農業を支え、海外までどう発展させていけばよいかグループのメンバーと話し合ったり、実際に企業へヒアリングへ行って直接話を聞いたり目で見たりと、かごしま茶に関して地元でありながらほとんど知識がなかったが、かごしま茶を知る良い機会にもなったと思う。また、かごしま茶の発展に向けてどういった企業が必要か調査していく中で、さまざまな企業の経営理念を見ていくと、いろんな視点から業務に携わっているんだと知り、私自身も視野が広がったように感じた。最終的に私が思ったこととして、かごしま茶の発展には若者が必要である。鹿児島のお茶産業を継ぐため、将来を担う若者に知ってもらい、若者の視点から考えていくことが大切だと感じた。

◎福元

日経STOCKリーグに挑戦して、株式投資とは企業の財務状況や経営状況など、数値に表れるデータと向き合うだけでないことを学んだ。SDGsの取り組み事例や達成状況、地域との連携力、そこで働く従業員が適切な環境で従事出来るかなど、普段は意識しない土台を加味することも重要だと知った。地元の名産であるかごしま茶をテーマとして選んだが、身近であるがゆえに意識していなかった生産・流通・消費の構造を直接業者に伺い、何を今必要とし何を課題としているか。茶産業の従事者の減少やリーフ茶の消費量低下など、業者だけでは解決が難しい課題を知れて、テーマについてより理解を深めることが出来たと思う。お茶は私達が普段飲んでいる飲料の一つであるが、直接的にお茶に関わる上場企業が少なかったため、企業選定の基準や評価をどうするか決め合うのは大変だったが、投資を学ぶにあたっての貴重な体験をすることが出来た。

6. 参考文献

【参照ホームページ】

- ・かごしま茶ナビ一般社団法人鹿児島県茶生産協会 <https://kagoshima-cha.or.jp/>
- ・かごしま茶 JA 鹿児島経済連 <https://www.karen-ja.or.jp/brand/kagoshima-ocha/>
- ・鹿児島茶 Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/>
- ・鹿児島県茶業会議所 <https://www.ocha-kagoshima.jp/>
- ・各企業ホームページ
- ・[海外で続く日本茶ブームー輸出は過去最高：2022年の八十八夜は5月2日 | nippon.com](https://www.nippon.com/ja/industry/tea/20220502/)
- ・[64999_20180327123016-1.pdf \(pref.kagoshima.jp\)](https://www.pref.kagoshima.jp/press/2022050201.pdf)

【参考文献】

- ・日本経済新聞（電子版も含む）

（表紙イラスト：イラスト AC、いらすとや、イラストボックス、Adobe Stock の利用条件に沿って利用）